



第3回自動車の高度化に伴う 安全確保策のあり方検討会

第2回検討会の振り返り

2022年2月16日

PwCコンサルティング合同会社



pwc

自動車の高度化に伴う安全確保策のあり方検討会について

1. 背景

- 自動運転技術や電動車の普及等、自動車の変容・高度化に伴い、高電圧保護や各種センサーの作動不良、サイバーセキュリティ等の新たな課題に対応すべく、電動車や自動運転技術搭載車(運転支援技術搭載車両も含む)の不具合情報を収集することがより重要になっている。
- また、車両のセルフチェック機能(いわゆる「OBD(On-Board Diagnostics)機能」)の導入により、今後、使用過程車に記録された故障データの更なる活用が可能となる見込みである。
- こうした不具合情報や故障データ等を有効活用することにより、安全や安心を確保した上で、ユーザーの利便性を図る取り組みについて検討する。

2. 検討事項

- 自動車の高度化に伴いOBD機能を搭載した使用過程車に関する故障データの収集・分析を進め、電動車や自動運転技術搭載車の安全確保策やデータの有効な利活用策についての検討を行う。
 - 自動車に搭載されるOBD機能の動向調査
 - 高度化した自動車の故障・整備データ(実車データ)等の収集・分析
 - 電動車や自動運転技術搭載車に対する安全確保策の検討
 - 電動車や自動運転技術搭載車に関するデータ利活用策の検討

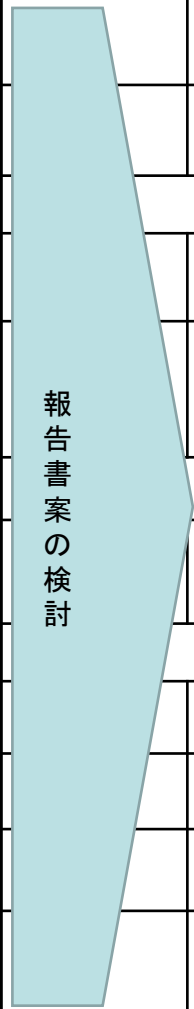
3. スケジュール(想定)

令和3年8月26日 第1回検討会開催

令和3年度中 第2回(12/14)、第3回(2/16)、第4回(3/7)を開催し、方向性を取りまとめ

本検討会のスケジュール(案)

	R3.8月	9月	10月	11月	12月	R4.1月	2月	3月
検討会								
開催時期	★				★		★	★
1 自動車に搭載されるセルフチェック機能の動向調査								
実態調査		メーカー等の 実態調査	分析			追加分析		
アンケート等		メーカー等への アンケート						
2 高度化した自動車の故障・整備データ(実車データ)等の収集・分析								
データ収集		データ収集						
故障コードの分析			分析			追加分析		
3 電動車や自動運転技術搭載車に対する安全確保策の検討								
					安全確保策検討		安全確保策精査	
4 電動車や自動運転技術搭載車に関するデータの利活用策案の検討								
①利活用事例調査		海外事例調査		追加調査				
②要望調査		ヒアリング		追加ヒア				
③利活用可能なデータの整理等		実態調査		追加調査				
④利活用策案検討		データ・分析結果 入手		利活用策案 検討		利活用策案精査		



議事(概要)

項目	主な議事
<p>事務局及び各団体からの説明</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● 事務局から、日常／定期点検項目におけるセルフチェック機能の動向調査の結果、故障コードの内容及び傾向分析の状況、自家用乗用自動車におけるバッテリーEVに特化した点検基準案などを説明した。また、団体意見として日本自動車工業会からOBD機能調査及び点検・検査の合理化に向けた提言などを、日本自動車整備振興会連合会から自動車整備業界の現状、課題及び対応案などを説明いただいた。 ● 事務局から、不具合／故障データの利活用策の検討に向けた事例調査及び関係団体へのヒアリング調査の結果などを説明した。
<p>委員からの主な意見</p>	<ul style="list-style-type: none"> ● <u>故障コードの分析に際し、ドライバーの特性を踏まえた追加分析を行ってはどうか。</u>ドライバーの運転傾向などの観点で分析することで、バイアスを排除しつつ、異なった結論を得る可能性がある。 ● <u>自動車の性能が向上している中、ユーザーの負担軽減のため日常点検の項目から除外できるものもあるのではないか。</u>再整理いただきたい。 ● <u>警告灯及び表示灯の数が多すぎるために、ユーザーにとっての視認性が低く、内容を理解しづらい状況となっている。</u>警告灯について、<u>ユーザー自身で対応可能なものか、整備工場に入庫する必要があるものか、に分け、例えば整備工場に入庫するべきものは1つの警告灯に集約し、ユーザーに入庫を促すなど、数を減らす工夫を検討いただきたい。</u> ● <u>警告灯が点灯するような不具合／故障はいつ、どこで発生するか分からないため、メーカーの販売店のみならず、全国9万の整備工場を活用して対応ができるような体制／環境整備を進めるべきではないか。</u> ● <u>ブレーキパッド消耗監視システムによる従来の点検方法の代替え案については、特に自動運転車などの先進自動車に対して実現可能か疑問がある。</u>現在の点検では、適正化通達に基づきパッドの厚みに加えて摩耗状況などの確認や、パッド残量のユーザーへの伝達なども行っている。<u>システムによる従来の点検の代替えにあたっては、点検頻度や技術的な信頼度も踏まえた判断が必要である</u>と考える。 ● ユーザーからは警告灯の表示内容に関する問い合わせをいただいている。意見報告の内容にあったように、<u>テキストメッセージや音声メッセージによる警告灯の案内は有効だと考えられる。</u> ● <u>日常点検の項目を減らすことで、ユーザーの利便性向上が高められる可能性がある一方、定期点検までの期間の安全性を担保するために、まだ使える部品についても、より頻繁にユーザー側で予防交換いただく状況が生じる可能性がある。</u>その場合、結果的に、ユーザーにとって不利益となる恐れもあり、<u>日常点検と予防交換による負担のバランスを考慮しつつ検討を進める必要があるのではないか。</u>